

# 平成26年度 総括 事業報告・決算報告

## I 事業報告概要

### あいのわ福祉会 法人本部

本年度末に障害福祉サービス費の報酬改定について具体的内容が告示され、表面上±0%の改定率となりましたが、福祉・介護職員の処遇改善拡充分が含まれており、基本報酬の実態はマイナスとなっています。また、一部の社会福祉法人による不適正な運営問題等を発端に、依然として社会福祉法人全体に向けられる視線は非常に厳しいものがあります。このような状況下で先般公表された社会福祉法人改革案においては、これまで以上に組織のガバナンス強化、運営の透明性確保等が強く求められると共に、余裕財産の明確化及び社会福祉事業・公益活動への再投下の義務付け等の方向性が示されました。これら改革案を受け、当法人においても経営基盤強化を一層推進し、且つ自発的・積極的に地域の福祉課題等へも応えていかなければなりません。

本年度、当法人においては設立20年の節目に中期経営計画の構築や役員の再編成を行い、新施設計画では、本年度5月に青井ハウスをオープンさせ、平成27年4月開設の通所施設「舎人あかしあ園」もほぼ計画スケジュール通り竣工・引き渡しを終えました。新・人事制度においては本年度より運用を開始し、一層の公正化を目的として人事管理システムを本格稼働させました。併せて、平成27年度「足立区ワークライフバランス企業」の認定が決定した事を踏まえ、更なる職場環境の改善に努めます。

また、平成27年度通所バス地区割り制度の実施においては、円滑な移行となるよう運営面の見直しや人事配置等の検討を経て、最終準備を完了させました。

一方で事務面においては、新・社会福祉法人会計基準の完全移行のため新たな会計システムを導入し、新年度より本格運用の開始となりますが、法人本部事務局による定例の事業所指導を引き続き行い、更なる標準化・効率化を推進します。

### 足立あかしあ園

今年度より、入浴活動・クラブ活動等、新たに活動を導入することで、利用者の方々の活動の幅を広げ、個別対応の拡大に努めました。またグループホームのバックアップでは、施設とグループホームで情報を共有し、利用者支援の充実を図りました。また施設間の連携を図り業務改善に努めました。

地域生活支援では、相談支援事業所と情報の共有と連携を図り、居宅における課題等の解決に努めました。

各グループごとの特色を活かし就労支援による作業の拡大やセミナー参加、企業見学など新たに取り組みました。理学療法による、コンサルテーションを実施し機能維持の訓練を展開しました。また職員が医療ケア、介護職員たんの吸引不特定研修に参加し、医療ケアが必要な利用者の方に対し介護職員も対応できるように整備いたしました。

## 綾瀬あかしあ園

今年度の重点課題として挙げていた、「職員の質の向上」につなげるため外部講師を招き介助、支援の見直しのための研修に取り組んできました。特に基本の介護技術や支援方法の確認を、重点的に行い、現在の介助方法を見直すための良い機会となりました。また、今年度実施の、バスの地区割りに対して、利用者家族への不安が解消されるよう、より丁寧に説明会等を開催しました。今後も利用者・ご家族の方々へあいのわの理念の方針に沿って、丁寧に支援します。

## 竹の塚あかしあの杜

平成26年度は、施設全体の運營業務の大きな見直し時期と捉え、入所、通所の事業枠を超え業務の見直し・改善を開始しました。入所では、週2.5回から週3回入浴への移行、ニーズの再把握、日中活動の再編、業務分担表による支援体制の見直し、他施設実習、スーパーバイザー導入を実施し業務改善を精力的に進めました。通所では、平成27年度開始の足立区通所バス地区割り制度の準備を中心に進めましたが、並行して入浴や日中活動、夕刻の入所利用者支援などの場面では、入所支援員との協働体制をとり、マンパワーの効率化を図りました。

また、近隣のデイサービス跡施設を借り上げ、社会福祉法人の地域貢献事業の展開の場と利用者の皆さんが安心して活用できる施設外の活動の場とし、地域住民向けの介護関連講座の開催や利用者の皆さんのパステル画体験教室等の利用を開始しました。

## あいのわ相談センター

法人内利用者の皆さんを中心に、基本相談及び計画相談を進めてきました。設立2年目を迎え専任2名体制となり、兼任者が法人内で明確に位置付けられた事から、各事業所からの協力も得られ、実施件数は大幅に増加しました。また、利用者、家族の方からの認知度も高くなりました。

しかし、実施件数を意識しながらも、丁寧に行うことを主眼として行った結果、現状の体制では相談支援の法人内利用者全員の計画相談を行う事すら難しいという課題も見えてきました。

相談支援内容としては、急激な家庭環境の変化に伴うサービスの追加や、ミドルステイ利用に加え、後半は地区割りに関する意見が多く聞かれ、必要に応じて相談支援を行ってきました。

## あいのわ支援センター

本年度は、青井ハウスの開設がありました。利用者の方々には、慣れない生活に戸惑いを感じながらも、今では自分らしい生活をしている様子が窺えます。これも通所施設職員によるバックアップ体制のかかわりが大きく、ここがしっかりと機能した事により安定した生活に繋がったのだと思います。あいのわ支援センターは5年目を迎えました。年毎にある法改正や人手不足、業務上の多々ある課題など、グループホームを取り巻く環境は年々厳しさを増していますが、次年度においても地域生活支援の拠点という責任において、利用者の方々が生み慣れた地域で安心した生活、ホッとできる生活の場を全職員が一丸となり新しく創り上げていきます。

## 神明福祉園

神明障がい福祉施設として3事業部門を統一の流れに向かったの2年目、看護師の配置について、ローテーション制で施設全体を把握できる仕組みとしたことは個々の利用者の皆さんの健康状況の把握を看護師で共有でき、施設全体として定着してきました。

利用者サービス支援においては、地域生活の継続の視点を大切にし、施設での支援目標を設定し活動を進めてきました。居宅支援利用や谷中支援センターとの連携による短期入所利用によってご家庭での負担の軽減に努めました。年度途中でご家庭の事情によりショートステイの利用や入所施設へ入られた方もいらっしゃいました。

園内での支援状況は各グループ活動に他のグループの利用者の方々が参加し、生活の幅を広げることに積極的に取り組み、場面ごとの横断的なグループをニーズに合わせて組み、活動を進めてきました。

谷中分室は最終年となり、個々の利用者の方にあつた生活の充実、次年度からの施設への引継ぎを行うことで、見通しと安心を提供してきました。

福祉園全体で職員間の連携と、役割の明確化に取り組みました。次年度に向け活動の多様性と支援の充実、サービス向上に繋げていきます。

## 神明福祉作業所

平成26年度は、喫茶店、クリーニング作業、兵和通り商店街作業など地域に出での作業に取り組むことができました。施設とは違う環境の中での作業は利用者の皆さんに良い刺激となり、仕事に対する意欲に繋がる等、地域の方との交流を図ることもできています。地域生活支援では、あいのわ相談センターと情報交換を行いながら、取り組み17名の方の相談支援が実現しました。

就労継続B型では、作業種目の増加、効率の向上に取り組みましたが、受注量の減少もあり、総収入は前年度を下回ってしまいました。今後も作業の拡大や提供方法の見直しを行い、作業効率の向上や工賃アップに取り組んでいきます。就労支援では、関係機関と連携をとり、希望者への支援を行った結果、2名の方の就職が決まりました。今後も就労希望者の就労支援、就労希望者の拡大に取り組んでいきます。

また、生活介護作業型では、一人ひとりに合わせた作業・活動提供のため、個々に合わせた作業提供や環境整備を行いました。それにより、利用者皆さんにとって分かり易い作業、活動の提供が行えています。現在実施している作業・活動についても定期的にチェックを行い、個々の変化に合わせた支援をすすめていきます。

## 神明デイサービスセンター

本年度新規利用の方は4名、利用終了者が3名で、利用契約者数は58名です。1日あたりの定員は20名ですが、定員を超えている曜日もあり、調整中です。1人あたり最大週2回の利用が可能です。

これまで、利用時間内での対応課題に止まらず、家庭生活上の問題・課題に対応する事例が増えます。今後、行政・関係機関等々との連携をさらに強化しながら、利用者の皆さんの地域生活の維持・継続を支えていきたいと思っております。バスの空き時間を利用した外出が難しくなり、近場への買い物を企画しました。それぞれの活動に変化を加える事や、新たな活動に挑戦する事で、日々の活動に刺激を加え、楽しく活動して頂けました。

## 大谷田就労支援センター

賞与・成果配分を含む工賃は13,951千円になり、前年度と比較して689千円、対比率4.7%マイナスになりました。売上は22,979千円、16.2%マイナスになりましたが、利益は経費等の削減で微減になっています。就職者は、就労移行支援より4名あり、就労継続支援B型からは5名で合計9名の就職者を輩出することができました。就労移行支援事業を開始してから6年間の就職者の累計は33名になりました。

設備面では、建物全館の電灯のLED入れ変え工事を行いました。

## 大谷田ホーム

5名の方が入居されていますが、買い物やお金の管理、外出など、自ら考え経験を積む中で力を付け、各々の入居者の方の生活の幅が広がってきています。

支援体制では、全職員間の連携を図るための改善に取り組みました。支援方法の統一化の構築を図るための仕組みづくりを実施しています。

2. 利用者人員推移

(平成27年3月31日現在/人)

	利 用 者										4月 新規利用者		
	定員	前年度末			本年度末			本年度末(地区割り後)					
		男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計			
足立あかしあ園	60	32	32	64	32	31	63	28	26	54	1	3	4
綾瀬あかしあ園	58	30	23	53	28	24	52	20	28	48	2	1	3
舎人あかしあ園 <新設>	50	-	-	-	-	-	-	20	7	27	1	0	1
竹の塚「きずな」	40	19	20	39	20	20	40	20	20	40	0	0	0
竹の塚「のぞみ」	35	19	15	34	19	15	34	14	11	25	0	2	2
竹の塚「なごみ」	(4)	(延利用 1,811)			(延利用 1,775)			(延利用 1,775)			-		
相談センター(特定相談)	(-)	(契約 70)			(契約 192)			(契約 192)			-		
支援センター「居宅・公益」	(-)	(契約 78)			(契約 88)			(契約 88)			-		
支援センター「谷中ハウス」	12	4	8	12	5	7	12	5	7	12	0	0	0
支援センター「綾瀬ハウス」	5	4	1	5	4	1	5	4	1	5	0	0	0
支援センター「青井ハウス」	10	-	-	-	0	10	10	0	10	10	0	0	0
支援センター「ショートステイ」	(4)	(延利用 1,280)			(延利用 1,476)			(延利用 1,476)			-		
神明福祉園(含、分室)	40	32	15	47	33	13	46	27	12	39	1	0	1
神明福祉作業所	50	30	19	49	28	18	46	28	18	46	0	3	3
神明デイサービスセンター	(20)	(契約 58)			(契約 58)			(契約 58)			-		
大谷田就労支援センター	43	25	11	36	20	8	28	22	6	28	4	1	5
大谷田ホーム	5	1	4	5	2	3	5	2	3	5	0	0	0
<b>合 計</b>	<b>408</b>	<b>196</b>	<b>148</b>	<b>344</b>	<b>191</b>	<b>150</b>	<b>341</b>	<b>190</b>	<b>149</b>	<b>339</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>19</b>
日々定員事業 (28)										* 城北分園・谷在家へ各1名転出			
「オハナ」(委託事業)	7	0	4	4	0	0	0	-	-	-	H27/1月 閉鎖		

3. 職員人員推移

(平成27年3月31日現在/人)

	常勤職員(含嘱託)			非常勤職員			常勤・非常勤 計			4/1 異動 増減	4/1 採用		計
	前年度末	本年度末	増減	前年度末	本年度末	増減	前年度末	本年度末	増減		常勤	非常勤	
	法人本部	4	5	▲1	0	0	0	4	5	▲1	▲1	0	0
足立あかしあ園	18	23	5	10	10	0	28	33	5	▲4	4	1	1
綾瀬あかしあ園	20	21	▲1	12	10	▲2	32	31	▲1	▲3	1	1	▲1
舎人あかしあ園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	3	3	17
竹の塚あかしあ園の杜	57	56	▲1	28	23	▲5	85	79	▲6	▲3	9	1	7
あいのわ相談センター	1	2	▲1	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0
あいのわ支援センター	11	10	▲1	19	20	1	30	30	0	2	1	0	3
神明障がい福祉施設	33	31	▲2	9	11	2	42	42	0	▲2	3	0	1
大谷田障がい福祉施設	14	15	▲1	5	4	▲1	19	19	0	0	0	0	0
<b>合 計</b>	<b>158</b>	<b>163</b>	<b>5</b>	<b>83</b>	<b>78</b>	<b>▲5</b>	<b>241</b>	<b>241</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>21</b>	<b>6</b>	<b>27</b>
「オハナ」(委託事業)	1	0	▲1	7	0	▲7	8	0	▲8	H27/1月 閉鎖			